

令和4年度 第2回大阪府立高津高等学校 学校運営協議会議事録

日 時：令和4年12月20日（火） 18：00～19：30

会 場：高津高校記念館同窓会室

出席者：〈委 員〉 森田 英嗣 （大阪教育大学教授）

新崎 国広 （大阪教育大学特任教授）※オンライン参加

古門 真一 （同窓会副会長）

安田 智則 （PTA会長）

〈事務局〉 立川 猛士（校長）、佐保田 真一（教頭）、熊本 浩恵（事務長）

前川 紘紀（首席）、中原 章太（首席・3学年主任）、我那覇 繁子（記録係）

1. 第1回学校運営協議会の意見をふまえて

（1）教職員の資質向上と学校運営体制の確立について

- ・経験年数の浅い教職員の学校運営への参画意識をより高めるため、校内学習システム PT を中心に教職員からの意見を具現化していく。例えば、GIGA スクール構想における ICT 環境については、高津モデルの ICT 教卓を企画し、全クラスへ配置する予定。結果的に、市販のものより廉価で使い勝手の良いものを制作できた。
- ・また、大阪府教育庁よりリーディング GIGA ハイスクール（アドバンスクラス）の指定を受けた。チョークの使用できる電子黒板およびワイドスクリーンに対応するプロジェクトが今年度内に設置され、4月より活用できる。まずは、教育環境を整えることで、教職員の負担軽減と授業力の向上をめざす。
- ・ジェネレーションギャップのある教職員間の業務継承、働き方改革等を踏まえ、教職経験の少ない先生に対し、経験値の高い先生と情報を共有する仕組みをすすめていく。まずは、経験値のある若手首席2人を配置し、学年、委員会、研修会等を横断的に支援することを行った。
- ・今後は、首席を中心に、学年、分掌を横断的に統括しながら、各種事業や行事の考え方、ノウハウを共有し、業務を継承しながら学校運営を全体の枠組みで考える体制を構築していく。

（2）高津高校クリエイトラボ・セミナーについて

- ・Kozu Sciencu Labo 研究交流会は科学実験で、導電性プラスチックを用いたフィルムスピーカーを作成。応募してきた地域の小・中学生（約40名）を本校生が指導をした。
- ・後半の講演会では、講師として総研大大学院で JAXA と共同研究している卒業生に依頼し、そのつながりで JAXA の方2名を招聘することができた。
- ・卒業生の講演会では、進路実現に向けて、生き生きと研究している姿を目の当たりにでき、本校生にとっては「生きた進路学習」となった。また、小・中学生にとっては「高津への憧れ」につながったと考えられる。
- ・JAXA の方の講演会では、「はやぶさプロジェクト」や「月面探査にかかるプロジェクト」において最前線で活動されている研究者からのとても貴重で興味深い話を聞くことができた。

(3) 情報Ⅰについて

- ・大阪工業大学と連携し、今年度はプログラミングに関する教材の開発を行った。
- ・次年度に向けて、データサイエンス等の連携を進めていく。

2, 令和4年度 「学校経営計画」の進捗状況について

① 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取り組みの推進

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

ア、確かな学力の充実と進路実現

- ・自己診断結果は次回。リーディング GIGA ハイスクール（アドバンスクラス）指定校に決定したので、今後モデル校として成果を示すことができると考えている。

イ、講習・補習の充実

- ・土曜講習は年間計画を立てて実施している。
- ・自習室は 20:00 まで開室。ズレ勤、勤務形態を柔軟に対応できるよう改善策等を立て、サービス残業にならないよう工夫した。家庭の経済状況等を踏まえ、生徒ができるだけ学校で勉強できるこの仕組みを継続させていく。

ウ、英語運用能力の向上

- ・KITEC（ネイティブによる夏休みの少人数一日英語漬け企画）は満足度 95.5%。

(1) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める。

- ・創造探究授業は現時点で、のべ 1194 人が参加。海外オンライン交流においては、SDGs をテーマに、台湾・韓国・フィリピンの高校生との交流を継続的に実施している。

(2) 進路指導のさらなる充実

ア、自己実現に向けた体験型進路学習の充実

- ・1年で職場訪問。職場は 63 か所で、企業理念や働くとは何か？をまとめ、プレゼンテーションを実施した。今年度は 1 人 1 台のパソコンの導入で、班別でのパワーポイントによる資料作成作業を効率的に実施することができた。
- ・2 年は 11 月に 52 か所の大学等の研究室を訪問し、その成果をまとめてポスターセッションを行った。

② スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と社会参加力の育成

- ・現在、7 クラブが高津キャラバン隊として、東大阪支援学校との交流や地域の清掃活動に参加している。

(2) 自主的活動と規律・規範意識の向上

- ・部活動加入率は 85.8%となっている。

③ 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

- ・授業アンケートの 2 回目の結果を次回に示す。教員のストレスチェックの値は改善した。特に、教職員間のサポート体制が好転している。

【ご意見・質疑応答】

委員（質問）：働き方改革について、努力目標はあるのか。

事務局（回答）：スリットをしているので時間外在校時間はわかる。月 80 時間をめやすとして本人にフィードバックし意識づけを行ったり、80 時間超過の教員には、産業医の面談を実施している。

委員（質問）：部活動は時間外の時間に含まれるのか。

事務局（回答）：含まれている。

委員（質問）：サイエンスラボの実践は大変興味深い。そのあたりを詳しく教えてほしい。

事務局（回答）：本校生は科学部、サイエンスツアーの生徒が参加。8 月に学習会を実施し、プラスチック等の素材を加工して通電性にしてスピーカーを作成した。

当日は音が鳴って拍手が起こり、児童・生徒は達成感があったと思われる。

後半の講演会には 58 名の本校生も参加。年齢の近い卒業生の話は進路選択の参考になった。

委員（意見）：ロールモデルとして面白い試みなので、科学以外のほかの分野でも期待したい。

委員（意見）：高校生が教えることの難しさや喜びを体験できる良い機会になったと思う。最先端の講師を迎え、高校生には身近に感じられたと思う。

委員（質問）：自習室などの取組みは他校もしているのか。

事務局（回答）：土曜講習や自習室は学校によって異なる。自習室については他の文理学科の生徒や校長から運営や方法について問い合わせがあった。

事務局（回答）：クリエイトラボ・セミナーやサイエンスラボ研究交流会は本校独自の取組みである。

本校 HP の「これから探究活動を進める学校へ」の内容を更新し、8 月初めにアップしたところ 700 回の閲覧があった。今後は高津を拠点校とし、さまざまな学校で汎用性のあるものを提供できればと考えている。

委員（質問）：ストレスチェック、授業アンケートについて他校と比較しているのか？

事務局（回答）：比較はしていない。ストレスチェックは全体の平均値を基準としている。

授業アンケートは、他の文理学科においても同じくらいの数値だと認識している。

3、東アジア太平洋高校生環境フォーラムについて

1/5～1/8 実施予定。東アジアの高校生（韓国・フィリピン）と河川調査などの交流。

4、スクールミッション案について

- ・「めざすべき学校像を再構築する」ために各学校が教育庁に提示し、決定される。
- ・本校は、100 年以上、一貫した校風校是「自由と創造」「日新日進」を軸として、従前からの「めざす学校像」をスクールミッションとして提示する。

5、その他

来年度、韓国の理科教育の優秀教員 80 名が、本校へ訪問予定。ここ 3 年間はコロナのため見送られたが、令和 5 年度に 2 回訪問予定。

【ご意見・質疑応答】

委員（意見）：自発性を大切にし、ジェンダーな部分も具体的である。年間計画も新しい提案が多く良かった。

委員（質問）：全体的に前向きで感心した。スクールミッションはいつぐらいに確定するのか。

事務局（回答）：令和5年2月からの動きになる。

委員（意見）：校長が代わっても、変わらない核のようなものになっている。「わかりやすさ」はよい。理解してもらわねばならないので。高津らしさを形にしてほしい。

委員（意見）：高津モデルの教卓を、ぜひ同窓会でも拝見したい。

委員（質問）：スクールミッションについて、本校はこういう人間性を持った子どもを学校の最終目標にしているようだが、人間性と進路実現を両立するのか？

事務局（回答）：本校は大学進学や就職を最終目標にはしていない。進路実現とは、社会で自分らしさを出して活躍できることを目標にしている。校風・校是を大切にしていきたい。

6、事務連絡

第3回 学校運営協議会は令和5年3月下旬予定。